

2020年度  
講義概要（シラバス）  
2・3年生

松江総合医療専門学校  
理学療法士科

科目区分	基礎分野	履修条件			
科目名	レクリエーション	単位数	1	開講年次	2年
担当教員	三井 律子	授業場所 (教室)		教室、体育館	
実務経験	公民館等、各種施設で体操講師経験あり				
授業形態	実習				
授業内容	レクリエーションプログラムの実践				
授業科目の 学習教育目標	レクリエーションについて理解する				
到達目標 (行動目標)	指導者としての基礎知識、レクリエーション活動、援助方法を学び、レクリエーションプログラムを実践できる。				
回数	授業計画				
1	レクリエーションの定義について				
2	レクリエーションの効用について				
3	レクリエーション実施の心得				
4	手・足の体操				
5	グループゲームの実際①				
6	グループゲームの実際②				
7	道具を使ったゲーム①				
8	道具を使ったゲーム②				
9	歌に合わせた体操の作成①				
10	歌に合わせた体操の作成②				
11	レクリエーション活動援助①				
12	レクリエーション活動援助②				
13	レクリエーション活動援助③				
14	レクリエーションプログラムについて①				
15	レクリエーションプログラムについて②				
成績評価	出席状況、受講態度、課題への取り組み等を考慮して総合的に評価する				
教科書及び参考書	基礎から学ぶ介護シリーズ 認知症の人のレクリエーション/余暇問題研究所 中央法規				
教材 (例:パソコン・ビデオ)					
メールアドレス					
備考 (受講に際する留意点など)					
楽しく充実した授業になるようお互いに切磋琢磨し取り組みましょう。					

科目区分	専門基礎分野	履修条件			
科目名	精神医学	単位数	2	開講年次	2年
担当教員	大竹 徹	授業場所 (教室)		教室	
実務経験	医師として市立病院精神神経科他での臨床経験あり。				
授業形態	講義				
授業内容	精神疾患について講義する				
授業科目の 学習教育目標	心の健康、疾病及び障害について、予防と回復過程の促進に関する知識を合わせて習得し、理解力、観察力及び判断力を養う。				
到達目標 (行動目標)	精神疾患について検査方法、症状、治療法について理解する。				
回数	授業計画				
1	精神疾患 (精神障害) 概論 1				
2	精神疾患 (精神障害) 概論 2				
3	精神医療と法律 1				
4	精神医療と法律 2				
5	精神医療と法律 3				
6	精神医療と法律 4				
7	ストレスと疾患・心身症				
8	ストレスと疾患・ストレス関連障害				
9	症候論 1				
10	症候論 2				
11	症候論 3				
12	症候論 4				
13	統合失調症				
14	感情障害				
15	心因反応				
16	神経症性障害				
17	アルコール依存症、認知症				
18	発達障害				
成績評価	定期試験、出席状況				
教科書及び参考書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 上野 武治 (医学書院) 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 臨床心理学 町沢 静夫 (医学書院)				
教材 (例:パソコン・ビデオ)					
メールアドレス					
備考 (受講に際する留意点など)					

科目区分	専門基礎分野	履修条件			
科目名	整形外科学Ⅰ	単位数	2	開講年次	2年
担当教員	内田賢、内田武 安平光一郎、橋本康平	授業場所(教室)		教室	
実務経験	総合病院で理学療法士として勤務経験あり。				
授業形態	講義形式(プリント配布、スライド)				
授業内容	座学にて様々な整形外科疾患を、実際の症例の画像も踏まえながら学習していく。				
授業科目の 学習教育目標	骨関節障害をはじめ、様々な整形外科に関する主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。				
到達目標 (行動目標)	① 疫学、予後について説明できる ② 病因、症候について説明できる ③ 検査(画像・生理検査を含む)、診断、治療について説明できる ④ リハビリテーション医療について説明できる ⑤ 整形外科の一般的疾患について説明できる				
回数	授業計画				
1	骨関節障害の疫学、予後、病因、症候について				
2	骨関節障害の検査(画像・生理検査を含む)、診断、治療について				
3	骨関節障害のリハビリテーション医療について				
4	骨関節障害の一般的疾患について ・変形性関節症、人工関節置換術後				
5	・骨折、脱臼、靭帯損傷				
6	・関節リウマチとその近縁疾患				
7	・スポーツ損傷				
8	・脊椎疾患(椎間板ヘルニア、脊椎症を含む)				
9	・腰痛症				
10	・切断(先天奇形を含む)				
11	・肩関節疾患(肩関節周囲炎、腱板損傷を含む)				
12	・骨粗鬆症				
13	・骨壊死性疾患				
14	・先天異常、系統疾患(骨端症を含む)				
15	・骨軟部腫瘍				
成績評価	小テスト・筆記試験・出席状況等				
教科書及び参考書	標準整形外科学/医学書院				
教材 (例:パソコン・ビデオ)	パソコン、プロジェクター				
メールアドレス					
備考(受講に際する留意点など)					

科目区分	専門基礎分野	履修条件			
科目名	整形外科科学II	単位数	2	開講年次	2年
担当教員	内田賢、内田武 安平光一郎、橋本康平	授業場所(教室)		教室	
実務経験	総合病院で理学療法士として勤務経験あり。				
授業形態	講義形式(プリント配布、スライド)				
授業内容	座学にて様々な整形外科疾患を、実際の症例の画像も踏まえながら学習していく。				
授業科目の 学習教育目標	骨関節障害をはじめ、様々な整形外科に関する主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。				
到達目標 (行動目標)	骨関節障害をはじめ、様々な整形外科に関する主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。 ① 疫学、予後について説明できる ② 病因、症候について説明できる ③ 検査(画像・生理検査を含む)、診断、治療について説明できる ④ リハビリテーション医療について説明できる ⑤ 整形外科の一般的疾患について説明できる				
回数	授業計画				
1	骨関節障害の一般的疾患について				
2	・義肢・装具				
3	・骨端症				
4	・頸椎疾患				
5	・末梢神経障害				
6	・スポーツ障害				
7	・腰椎疾患				
8	・脊椎の変形・奇形・腫瘍				
9	・股関節疾患				
10	・膝関節疾患				
11	・肩関節疾患				
12	・関節リウマチ				
13	・転移性骨腫瘍・骨軟部腫瘍				
14	・リハビリテーション				
15	・まとめ				
成績評価	小テスト・筆記試験・出席状況等				
教科書及び参考書	標準整形外科学/医学書院				
教材 (例:パソコン・ビデオ)	パソコン、プロジェクター				
メールアドレス					
備考(受講に際する留意点など)					

科目区分	専門基礎分野	履修条件			
科目名	神経内科学Ⅰ	単位数	2	開講年次	2年
担当教員	内田武	授業場所(教室)			
実務経験	総合病院で理学療法士として勤務経験あり。				
授業形態	講義				
授業内容	神経内科疾患の症状、診断、治療について講義する				
授業科目の 学習教育目標	神経内科で扱う疾患、症状の理解、診断方法、治療法について講義する				
到達目標 (行動目標)	神経内科疾患の症状、検査、診断、治療等について理解する				
回数	授業計画				
1	神経内科学総論				
2	大脳の部位と働き				
3	意識、脳神経の診かた				
4	運動、感覚の診かた				
5	運動、感覚、腱反射、失調1				
6	運動、感覚、腱反射、失調2				
7	失語、失認、失行1				
8	失語、失認、失行2				
9	神経内科学検査				
10	脳血管障害1				
11	脳血管障害2				
12	脳血管障害3(画像診断)				
13	認知症1				
14	認知症2				
15	まとめ				
成績評価	定期試験				
教科書及び参考書	ベッドサイドの神経の診かた 病気がみえるVol.7 脳・神経				
教材 (例:パソコン・ビデオ)	パソコン、ビデオ、DVD				
メールアドレス					
備考(受講に際する留意点など)					

科目区分	専門基礎分野	履修条件			
科目名	神経内科学II	単位数	2	開講年次	2年
担当教員	内田武	授業場所(教室)		教室	
実務経験	総合病院で理学療法士として勤務経験あり。				
授業形態	講義				
授業内容	神経内科学領域の疾患について講義する				
授業科目の 学習教育目標	神経内科学領域で扱う疾患について症状の理解、診断、治療等について講義する				
到達目標 (行動目標)	神経内科疾患の症状、検査、診断、治療等について理解する				
回数	授業計画				
1	錐体外路疾患 不随意運動 パーキンソン病1				
2	錐体外路疾患 不随意運動 パーキンソン病2				
3	変性疾患 脊髄小脳変性症 多系統萎縮症等				
4	運動ニューロン疾患 筋疾患 脱髄疾患				
5	末梢神経障害				
6	脊髄疾患				
7	感染性疾患				
8	中毒性疾患				
9	栄養欠乏による神経疾患				
10	内科疾患との関連				
11	小児疾患				
12	頭痛 めまい				
13	てんかん				
14	合併症 嚥下障害 フィジカルアセスメント				
15	まとめ				
成績評価	定期試験				
教科書及び参考書	ベッドサイドの神経の診かた 病気がみえるVol.7 脳・神経				
教材 (例:パソコン・ビデオ)	パソコン、ビデオ、DVD				
メールアドレス					
備考(受講に際する留意点など)					

科目区分	専門基礎	履修条件			
科目名	リハビリテーション医学	単位数	2	開講年次	2年
担当教員	木佐 俊郎 他	授業場所 (教室)		教室	
実務経験	医師としてリハビリテーションに実務経験あり。				
授業形態	講義				
授業内容	リハビリテーションに関わる障害の評価と治療を学ぶ				
授業科目の 学習教育目標	リハビリテーションの理念について学習する。リハビリテーション医療の定義と歴史について学習する。 リハビリテーション医療の特徴について学習する。				
到達目標 (行動目標)	リハビリテーションの理念について説明できる。リハビリテーション医療の定義と歴史について説明できる。 リハビリテーション医療の特徴について説明できる。				
回数	授業計画				
1	リハビリテーション医学総論 (自立支援、他職種連携等)				
2	評価と診断 1				
3	評価と診断 2				
4	リハビリテーション治療学 1				
5	リハビリテーション治療学 2				
6	循環器疾患のリハビリテーション				
7	呼吸器疾患のリハビリテーション				
8	内部障害のリハビリテーション				
9	外傷性脳損傷と高次脳機能障害のリハビリテーション				
10	小児疾患・脳性麻痺のリハビリテーション				
11	脊髄疾患・脊髄損傷のリハビリテーション				
12	切断のリハビリテーション				
13	摂食・嚥下障害のリハビリテーション				
14	難病のリハビリテーション				
15	地域包括ケアシステムについて				
成績評価	定期試験				
教科書及び参考書	リハビリテーション医学/江藤文夫監修 医歯薬出版				
教材 (例:パソコン・ビデオ)	パソコン、プロジェクター				
メールアドレス					
備考 (受講に際する留意点など)					



科目区分	専門分野	履修条件		
科目名	臨床運動学	単位数	2	開講年次 2年
担当教員	内田賢、内田武 安平光一郎、橋本康平	授業場所 (教室)		機能訓練室・治療室
実務経験	総合病院で理学療法士として勤務経験あり。			
授業形態	講義、演習、レポート作成			
授業内容	正常な人間の動きを理解するために、姿勢、寝返り、起き上がり、起立、歩行など実際に行われている動作や運動の観察と分析を行う。			
授業科目の 学習教育目標	運動学の基礎知識をもとに、健常者を対象として行われている姿勢や動作を観察・分析する。その中で基本動作をみる眼を養い、運動学的表現を身に付け、基本的な動作分析の考え方を学ぶ。レポートを作成し、運動学・解剖学的表現の使い方、文章を通じて自分の考えをまとめる能力を身につける。			
到達目標 (行動目標)	基本動作および歩行に必要な機能の理解を深め、これらを基に臨床症例の姿勢や動作を観察、説明、考察できるようになり、実際の評価および理学療法に応用できる。 ①正常な姿勢、基本動作を知り、解剖学・運動学的表現ができる。 ②様々な運動パターンを観察し、正常との違いを比較する。 ③自らの考えを相手に伝えたり、グループ内での意見をまとめ共有し発表できる。 ④運動学・解剖学的表現でレポートにまとめ自分の意見を伝えることができる。			
回数	授業計画			
1,2	オリエンテーション			
3,4	レポートの書き方、観察・分析の方法			
5,6	姿勢観察			
7,8	姿勢観察			
9,10	動作観察 (寝返り)			
11,12	動作観察 (寝返り)			
13,14	動作観察 (起き上がり)			
15,16	動作観察 (起き上がり)			
17,18	動作観察 (立ち上がり)			
19,20	動作観察 (立ち上がり)			
21,22	動作観察 (歩行)			
23,24	動作観察 (歩行)			
25,26	動作分析			
27,28	動作分析			
19,30	発表会・まとめ			
成績評価	演習ごとのレポート課題、発表点などを総合的に評価する。			
教科書及び参考書	配布資料：各演習ごとに配布します。 参考文献：「動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践」 メジカルビュー			
教材 (例:パソコン・ビデオ)	治療台、マット、撮影機器、メジャーなど			
メールアドレス				
備考 (受講に際する留意点など)				
臨床実習の基礎となるので、積極的に取り組み、理解を深めてください。課題レポートの提出期限は厳守してください。授業ではなるべく薄着で、身体の動きが確認しやすい服装を心がけてください。				

科目区分	専門分野	履修条件			
科目名	理学療法評価法II (感覚・反射等)	単位数	2	開講年次	2年
担当教員	内田武	授業場所(教室)		機能訓練室	
実務経験	総合病院で理学療法士として勤務経験あり。				
授業形態	講義、演習				
授業内容	理学療法評価技術(筋緊張・反射・感覚・姿勢反射検査)の目的、方法等の講義と合わせて、実技を行い技術を習得していく。				
授業科目の 学習教育目標	疾病に関係なく理学療法士が実施する種々の機能低下を把握するための検査測定技法(知覚検査、筋トーン検査、反射検査、姿勢反射検査)を修得し、その結果の解釈について学ぶ。				
到達目標 (行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感覚異常の程度と関連要因を把握する評価が実施できる</li> <li>・筋緊張異常の程度と関連要因を把握する評価が実施できる</li> <li>・反射異常の程度と関連要因を把握する評価が実施できる</li> <li>・姿勢異常(臥位、座位、立位)や運動能力低下による起居移動動作能力低下、さらにセルフケアや住環境(生活環境)の課題を把握する評価が実施できる。</li> <li>・評価結果を統合と解釈し、臨床推論に繋げることができる。</li> </ul>				
回数	授業計画				
1	感覚検査とは(意義・目的)				
2	感覚検査(表在・深部感覚)				
3	感覚検査(複合感覚)				
4	反射とは(意義・目的)				
5	反射検査(深部反射)				
6	反射検査(表在反射)				
7	反射検査(病的反射/表在反射)				
8	反射検査(病的反射/表在反射)				
9	筋トーン検査(意義・目的)				
10	筋トーン検査(静止時検査)				
11	筋トーン検査(姿勢性検査)				
12	姿勢反射検査(脊髄レベル・脳幹レベル)				
13	姿勢反射検査(中脳レベル・脳皮質レベル)				
14	評価結果の解釈・統合、臨床推論(運動能力低下より)				
15	評価結果の解釈・統合、臨床推論(まとめ)				
成績評価	筆記試験と実技手技の習得、出席状況・取り組み態度を総合して評価を行う。				
教科書及び参考書	松澤 正：理学療法評価学 第4版、金原出版株式会社、 田崎 義昭：ベッドサイドの神経の診かた、南山堂、 配布資料、実技用具等				
教材 (例：パソコン・ビデオ)	パソコン、プロジェクター				
メールアドレス					
備考(受講に際する留意点など)					
講義回数は15回ですが、講義内のみで習得するのではなく、復習を繰り返して行ってください。特に実技は何度も復習することが重要です。					

科目区分	専門分野	履修条件		開講年次	2年
科目名	理学療法評価法実習Ⅰ (MMT)	単位数	1	開講年次	2年
担当教員	安平 光一郎	授業場所 (教室)		機能訓練室	
実務経験	総合病院で理学療法士として勤務経験あり。				
授業形態	講義・演習・実習				
授業内容	ある特定の筋、筋群がどの程度の筋力低下があるか、または麻痺があるか、それが治療によってどの程度まで回復したかを徒手筋力検査法を使って評価する。患者の将来の社会復帰に対する目安を付けるための評価法である。これらの基本的な考え方や技術を習得し、関連要因を把握する評価を学ぶ。				
授業科目の 学習教育目標	基礎となる筋の起始・停止・作用・神経支配を説明できる。 徒手筋力検査法 (MMT) を習得し、筋力低下の程度と関連要因を把握する評価を実施する。 評価を行う上で必要となる対象者へのコミュニケーション技術、配慮、リスク管理を身につける。				
到達目標 (行動目標)	①筋の起始・停止・作用・神経支配を列記する。 ②対象者の状態より筋力低下している部分を推測する。 ③MMTを習得し、筋力低下の程度を評価する。 ④評価を行う上でリスク管理を徹底する。 ⑤対象者への負担に配慮しつつ、医療人として適切にコミュニケーションする。				
回数	授業計画				
1	筋力検査の目的、MMT判定基準、MMTの実施、代償運動 (総論)				
2	各論及び実技	徒手筋力検査実技	(導入・下肢)		
3	各論及び実技	徒手筋力検査実技	(下肢)		
4	各論及び実技	徒手筋力検査実技	(下肢)		
5	各論及び実技	徒手筋力検査実技	(下肢)		
6	各論及び実技	徒手筋力検査実技	(下肢)		
7	各論及び実技	徒手筋力検査実技	(下肢)		
8	各論及び実技	徒手筋力検査実技	(上肢)		
9	各論及び実技	徒手筋力検査実技	(上肢)		
10	各論及び実技	徒手筋力検査実技	(上肢)		
11	各論及び実技	徒手筋力検査実技	(上肢)		
12	各論及び実技	徒手筋力検査実技	(体幹)		
13	各論及び実技	徒手筋力検査実技	(体幹)		
14	各論及び実技	徒手筋力検査実技	(体幹)		
15	各論及び実技	徒手筋力検査実技	(顔面)		
成績評価	実技試験 (50%)、筆記試験 (50%)				
教科書及び参考書	「新・徒手筋力検査法 原著第9版」 共同医書出版社、配布資料				
教材 (例:パソコン・ビデオ)	教科書、筆記用具				
メールアドレス					
備考 (受講に際する留意点など)					
動きやすい服装で参加してください。わからないことは教材を見返し、教員やクラスメートに質問したり、実技演習などを通じて理解を深めてください。授業時間のみでは実技を習得することは困難であり、自己研鑽に励んでください。 授業中の飲食は禁止します。必要時には、許可を取ってから教室の出入りをしてください。携帯電話は電源を切ることを。					

科目区分	専門分野	履修条件			
科目名	理学療法評価法実習Ⅱ (特殊検査等)	単位数	1	開講年次	2年
担当教員	内田 武	授業場所(教室)		機能訓練室	
実務経験	総合病院で理学療法士として勤務経験あり。				
授業形態	実技、必要に応じて講義				
授業内容	実際の症例を通して、急性痛・慢性痛に対する理学療法士の見方や考え方を実技を中心に学ぶ。				
授業科目の 学習教育目標	疾病に関係なく、様々な急性痛・慢性痛の疫学、病因、症候、分類、予後を踏まえて、理学療法士が実施する種々の機能低下を把握するための検査測定技法(触診、整形外科検査)を修得し、その結果の解釈、治療の方法について学ぶ。				
到達目標 (行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・疼痛(急性痛、慢性疼痛)の程度と関連要因を把握して評価が実施できる</li> <li>・急性痛・慢性痛の疫学、予後について説明できる</li> <li>・急性痛・慢性痛の病因、症候について説明できる</li> <li>・急性痛・慢性痛の検査(画像・生理検査を含む)、診断、治療について説明できる</li> <li>・急性痛・慢性痛のリハビリテーション医療について説明できる</li> <li>・慢性疼痛の分類について説明できる</li> </ul>				
回数	授業計画				
1	理学療法技術としての触診・整形外科的検査・疼痛評価 概論				
2	各急性・慢性疼痛の疫学、予後、病因、症候、分類について				
3	触診 実技 (上肢)				
4	触診 実技 (下肢)				
5	触診 実技 (体幹)				
6	整形外科検査(上肢)				
7	整形外科検査(下肢)				
8	整形外科検査(体幹)				
9	各急性・慢性疼痛の検査結果(画像・生理検査)、診断を踏まえた検査(触診、疼痛検査、整形外科的検査)、治療の方法について				
10					
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一次性慢性疼痛(非特異的腰痛、線維筋痛症などを含む)</li> <li>・がん性慢性疼痛</li> </ul>				
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・術後および外傷後慢性疼痛(複合性局所疼痛症候群などを含む)</li> </ul>				
13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・慢性神経障害性疼痛(帯状発疹後神経痛、三叉神経痛、視床痛、幻視痛などを含む)</li> <li>・慢性筋骨格系痛</li> </ul>				
14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その他慢性疼痛(慢性の頭痛、口腔顔面痛、内臓痛などを含む)</li> </ul>				
15	評価結果の解釈・統合を考える				
成績評価	学科試験、実技テスト、小テスト、授業態度、出席など総合的に評価する。				
教科書及び参考書	機能解剖学的触診技術「上肢」(メディカルビュー社) 機能解剖学的触診技術「下肢・体幹」(メディカルビュー社) 理学療法評価学 金原出版 配布資料(プリントなど)				
教材 (例:パソコン・ビデオ)	パソコン、プロジェクター				
メールアドレス					
備考(受講に際する留意点など)					
実技では臨床に臨む服装、態度で受講すること。					

科目区分	専門分野	履修条件			
科目名	理学療法評価法実習Ⅲ (各種検査法等)	単位数	1	開講年次	2年
担当教員	橋本康平	授業場所(教室)		機能訓練室・治療室	
実務経験	総合病院で理学療法士として勤務経験あり。				
授業形態	実技、必要に応じて講義				
授業内容	脳神経検査・姿勢反射・片麻痺機能検査・協調性検査・高次脳検査・精神疾患の評価について学習する。				
授業科目の 学習教育目標	上記の項目についての評価方法と筋骨格・神経系メカニズムについて学習する。また、評価結果の解釈と動作異常と関連付ける思考過程の練習を行い、その説明が出来るようになる。				
到達目標 (行動目標)	各回の講義内容を復習し、必要があれば担当教員への質問を行う。これらを通して、理解度確認テストで十分な点数が取れるよう学習を行う。実習形式で実技を行う際には、デモンストラーションの模倣からはじめて、積極的に参加し繰り返し身体を使って練習をする。				
回数	授業計画				
1	脳神経検査				
2	脳神経検査				
3	片麻痺運動機能検査				
4	片麻痺運動機能検査				
5	協調性検査				
6	協調性検査				
7	協調性検査				
8	姿勢反射				
9	姿勢反射				
10	高次脳機能検査とその対応について				
11	高次脳機能検査とその対応について				
12	精神疾患の代表的な評価とその対応について				
13	基本動作の異常と評価結果の関係性①				
14	基本動作の異常と評価結果の関係性②				
15	基本動作の異常と評価結果の関係性③				
成績評価	定期試験				
教科書及び参考書	理学療法評価学 金原出版				
教材 (例:パソコン・ビデオ)					
メールアドレス					
備考(受講に際する留意点など)					

科目区分	専門分野	履修条件			
科目名	運動療法Ⅱ（各種体操等）	単位数	2	開講年次	2年
担当教員	安平 光一郎	授業場所（教室）		教室、訓練室	
実務経験	総合病院で理学療法士として勤務経験あり。				
授業形態	講義、演習				
授業内容	運動療法は、理学療法の中でも最も重要な分野で、各種疾患によって引き起こされる様々な障害に対して、治療効果を発揮できるような基本的な概念を学習する。				
授業科目の学習教育目標	各疾患の病態理解を前提に適応となる運動療法の内容や実施方法を学ぶ。また運動療法を実施する上での注意点や禁忌事項等を演習を通して学ぶ。				
到達目標 (行動目標)	疾患別の運動療法について説明する事が出来る。				
回数	授業計画				
1	運動療法Ⅰの復習				
2	骨関節疾患の運動療法(骨折・脱臼)(膝の靭帯・半月板損傷)腱断裂の運動療法				
3	関節リウマチ、変形性関節症と人工関節置換術、側彎症の運動療法				
4	脳血管障害(早期・回復期)パーキンソン病・パーキンソニズムの運動療法				
5	脳外傷・脳性麻痺の運動療法				
6	脊髄疾患の運動療法				
7	脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症の運動療法				
8	多発性硬化症、ギラン・バレー症候群、筋ジストロフィーの運動療法				
9	疼痛疾患の運動療法(腰痛・肩関節痛)				
10	切断の運動療法				
11	呼吸器不全の運動療法				
12	糖尿病の運動療法				
13	ICUにおける運動療法、熱傷、悪性腫瘍の運動療法				
14	浮腫の運動療法、廃用症候群の運動療法				
15	まとめと復習				
成績評価	定期試験				
教科書及び参考書	「運動療法Ⅰ」第2版:神陵文庫 監修:千住秀明 編集:河元岩男 溝田勝彦 「標準理学療法学専門分野 運動療法学総論」医学書院 監修:奈良勤				
教材 (例:パソコン・ビデオ)	パソコン、プロジェクター、配布資料				
メールアドレス					
備考（受講に際する留意点など）					
1年生の運動療法Ⅰの復習をしておいてください。					

科目区分	専門分野	履修条件			
科目名	運動療法実習Ⅰ（脳性麻痺等）	単位数	1	開講年次	2年
担当教員	鮫島 一雄、車田 良介	授業場所（教室）		教室、訓練室	
実務経験	総合病院で理学療法士として勤務経験あり。				
授業形態	講義				
授業内容	脳性麻痺・小児疾患の理学療法について講義する。 筋ジストロフィーに対する理学療法について講義する。				
授業科目の 学習教育目標	理学療法の対象となる小児疾患を講義・実技を中心に授業を進めていく。小児理学療法を理解するには、発達学・神経学・整形外科学等の様々な知識を必要とする。授業は、既に学んだ知識の復習を行いながら進めていく。小児理学療法が特殊な疾患ではないことを理解してほしい。筋ジストロフィー症も疾患・分類・予後予測や理学療法評価・治療など関わり方について講義する。				
到達目標 (行動目標)	理学療法の対象となる小児疾患について理解する。 筋ジストロフィー症の理学療法について理解する。				
回数	授業計画				
1	正常出産と異常出産				
2	発達検査と運動発達検査、姿勢反射と検査方法				
3	脳性麻痺の定義、疫学、原因と病理、分類				
4	異常姿勢反射と運動発達障害				
5	脳性麻痺痙直型四肢麻痺・両麻痺の臨床症状と異常発達				
6	脳性麻痺痙直型片麻痺の臨床症状と異常発達				
7	脳性麻痺アトローゼ型の臨床症状と異常発達				
8	脳性麻痺痙直型四肢麻痺・両麻痺の評価と治療				
9	脳性麻痺痙直型片麻痺の評価と治療				
10	脳性麻痺アトローゼ型の評価と治療				
11	子ども整形外科疾患（二分脊）				
12	ダウン症について				
13	筋ジストロフィーについて（疾患・分類・予後予測など）				
14	筋ジストロフィー症の検査・評価				
15	筋ジストロフィーについての治療・関わり方				
成績評価	定期試験、授業態度、出席など総合的に評価する				
教科書及び参考書	シンプル理学療法学シリーズ小児理学療法学テキスト/田原弘幸/南江堂、配布資料				
教材 (例:パソコン・ビデオ)	パソコン、配布資料				
メールアドレス					
備考（受講に際する留意点など）					
1年生の人間発達で学んだ運動発達の資料や神経系の教科書を用意しててください。					

科目区分	専門分野	履修条件			
科目名	運動療法実習Ⅱ（代謝・循環）	単位数	1	開講年次	2年
担当教員	安食 克志・福山 直樹	授業場所（教室）		教室、訓練室	
実務経験	総合病院で理学療法士として勤務経験あり。				
授業形態	講義				
授業内容	糖尿病を中心とした代謝疾患の理学療法について講義する。 循環器疾患の評価・検査、心臓リハビリテーションについて講義する。				
授業科目の 学習教育目標	国民病の一つとされる糖尿病は特有の合併症を併発し、運動障害へ発展することから理学療法分野（運動療法）との関わりが深い。理学療法実施上の知識として疾患を理解していく。 高齢化に伴い、既往歴に何らかの循環器疾患を抱えている方を担当する機会は増えてきている。臨床上よく遭遇する疾患や不整脈、循環器の評価・検査、心臓リハビリテーションについて理解を深める。				
到達目標 （行動目標）	代謝疾患の理学療法について理解する。 循環器疾患の理学療法、心臓リハビリテーションについて理解する。				
回数	授業計画				
1	糖尿病概論				
2	糖尿病の検査・治療				
3	糖尿病障害 臨床症状の理解				
4	糖尿病の理学療法Ⅰ				
5	糖尿病の理学療法Ⅱ				
6	老年期糖尿病				
7	糖尿病合併症				
8	糖尿病のまとめ				
9	循環器の解剖・生理・総論				
10	循環器の評価、検査				
11	心電図、不整脈				
12	循環器の疾患（Ⅰ）虚血性心疾患、心臓弁膜症				
13	循環器の疾患（Ⅱ）血管疾患、心不全				
14	運動負荷試験				
15	心臓リハビリテーション				
16	循環器疾患の理学療法 総括				
成績評価	定期試験、授業態度、出席など				
教科書及び参考書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野「内科学」医学書院 理学療法ハンドブック 共同書出版				
教材 （例：パソコン・ビデオ）	パソコン				
メールアドレス					
備考（受講に際する留意点など）					



科目区分	専門分野	履修条件			
科目名	理学療法技術論Ⅰ (整形外科疾患)	単位数	4	開講年次	2年
担当教員	安平光一郎	授業場所(教室)		教室・機能訓練室	
実務経験	総合病院で理学療法士として勤務経験あり。				
授業形態	講義				
授業内容	代表的な整形外科疾患についての理学療法について学ぶ。				
授業科目の 学習教育目標	整形外科疾患の理学療法は、急性期から回復期、維持期までの治療に深くかかわっている。整形外科疾患に対する理学療法の実際について、各疾患の画像診断(CT・MRI等)や各種検査データからの情報収集や評価から治療までの一連の流れを実技なども通じて総合的に学習する。				
到達目標 (行動目標)	各回の講義内容を復習し、必要があれば担当教員への質問を行う。これらを通して、理解度確認テストで十分な点数が取れるよう学習を行う。実習形式で実技を行う際には、デモンストレーションの模倣からはじめて、積極的に参加し繰り返し身体を使って練習をする。				
回数	授業計画		回数	授業計画	
1	整形外科疾患の理学療法とは		16	脊椎の機能解剖とバイオメカニクス	
2	股関節の機能解剖とバイオメカニクス		17	脊椎の機能解剖とバイオメカニクス	
3	股関節疾患の具体的評価法		18	脊椎疾患の具体的評価法	
4	膝関節疾患の機能解剖とバイオメカニクス		19	肩関節の機能解剖とバイオメカニクス	
5	膝関節疾患の具体的評価法		20	肩関節疾患の具体的評価法	
6	骨折・脱臼の概要		21	頸椎部疾患の概要	
7	骨折・脱臼の治療		22	頸椎部疾患の治療	
8	骨折・脱臼の理学療法		23	頸椎部疾患の理学療法	
9	大腿骨頸部骨折の概要・治療		24	胸・腰部疾患の概要	
10	大腿骨頸部骨折の理学療法		25	胸・腰部疾患の治療	
11	変形性関節症の概要		26	胸・腰部疾患の理学療法	
12	変形性股関節症の概要・治療		27	肩関節疾患の概要	
13	変形性股関節症の理学療法		28	肩関節疾患の治療	
14	変形性膝関節症の概要・治療		29	肩関節疾患の理学療法	
15	変形性膝関節症の理学療法		30	まとめ	
成績評価	定期試験70%・小テスト(理解度確認テスト)20%、出席・授業態度10%を総合して判定する。				
教科書及び参考書	整形外科理学療法の理論と技術 メジカルビュー社、標準整形外科学第12版 医学書院				
教材 (例:パソコン・ビデオ)	パソコン、プロジェクター、テーピング類				
メールアドレス					
備考(受講に際する留意点など)					
<p>実習講義の場合、動きやすい服装で受講すること。</p> <p>評価や治療を学ぶためには解剖学、運動学などの知識が必須となります。しっかりと復習して臨むこと。</p>					

科目区分	専門分野	履修条件			
科目名	理学療法技術論Ⅱ（脊損）	単位数	2	開講年次	2年
担当教員	坂本親宣	授業場所（教室）		教室、訓練室	
実務経験	労災病院等で理学療法士として臨床経験あり				
授業形態	講義・実技				
授業内容	脊髄損傷の理学療法について講義する				
授業科目の 学習教育目標	脊髄損傷者の障害は、運動や感覚障害だけでなく、自立神経障害、排尿障害、性機能障害があり、社会復帰を阻害している。脊髄損傷者に対して理学療法を施行していく上で原因、分類、経過など理解しなければならない。実技を含めながら、そのような多くの側面からの講義を行う。				
到達目標 （行動目標）	脊髄損傷の原因、分類、経過、障害について理解する。脊髄損傷患者の理学療法について基礎知識、基本的な技術について理解し習得する。				
回数	授業計画				
1	脊髄損傷の原因				
2	脊髄損傷の分類				
3	不全損傷				
4	脊髄損傷の経過				
5	脊髄損傷の症状1				
6	脊髄損傷の症状2				
7	脊髄損傷の症状3				
8	脊髄損傷の症状4				
9	実技1				
10	実技2				
11	実技3				
12	実技4				
13	実技5				
14	実技6				
15	まとめ				
成績評価	定期試験（ペーパー80%、実技 20%）				
教科書及び参考書	配布資料				
教材	パソコン、配布資料				
メールアドレス					
備考（受講に際する留意点など）					
<p>一方通行の講義でおわらないように学生に質問を次々に投げかけていくのが私の講義スタイルです。解剖学、生理学、運動学などこれまでに学校で教わった知識全般について質問をしますので、事前に知識の整理しておいてください。</p> <p>もし講義を受ける気がなくて居眠りや内職をしても、皆さんは小学生ではないのですから、私は別に注意したりしません。「講義を受けたい学生だけ聞いてくれたら結構」という考えです。講義中の一瞬一瞬を大切に、4日間お互いに納得できる講義にしたいと思いますので、講義を受ける「構え」をしっかり作って望んでください。また、毎日の復習を欠かさないようにしてください。</p>					

科目区分	専門分野	履修条件			
科目名	理学療法技術論Ⅲ（呼吸）	単位数	2	開講年次	2年
担当教員	内田 賢	授業場所（教室）		教室、訓練室	
実務経験	総合病院で理学療法士として臨床経験あり				
授業内容	呼吸理学療法について				
授業科目の学習 教育目標	呼吸器疾患は患者は増加の傾向にあり、呼吸リハビリテーションの重要性も増している。呼吸器疾患について理解し、その治療法や呼吸リハビリテーションについて学習する。				
到達目標 (行動目標)	呼吸理学療法に必要な知識と技術を学習し、呼吸リハビリテーションについて理解、説明できる。				
回数	講義内容				
1	総論、呼吸とは 呼吸リハの必要性、呼吸器の解剖				
2	呼吸器系の解剖・生理・運動学				
3	血液ガスの解釈				
4	呼吸機能検査（スパイログラム、フローボリューム曲線）				
5	呼吸器系の体表解剖				
6	呼吸器疾患の評価法1（フィジカルアセスメント：視診・触診・打診）				
7	呼吸器疾患の評価法2（フィジカルアセスメント：聴診）				
8	呼吸器疾患の評価法3				
9	呼吸理学療法技術Ⅰ（リラクゼーション、胸郭柔軟性改善等）				
10	呼吸理学療法技術Ⅱ（呼吸筋トレーニング）				
11	呼吸理学療法技術Ⅲ（排痰法）				
12	呼吸理学療法技術（運動療法）				
13	呼吸器疾患患者の薬物療法・在宅酸素療法等				
14	術後の呼吸管理と理学療法				
15	まとめ				
教科書及び参考書	教科書：呼吸リハビリテーション第4版 中山書店 参考書：リハ実践テクニック・呼吸ケア メジカルビュー社 理学療法ハンドブック 医歯薬出版 呼吸理学療法標準手技 医学書院				
授業方法	講義及び実技				
教材 (例：パソコン・ビデオ)	スライド・資料				
成績評価	定期試験、小テスト、出席状況				
備考（受講に際する留意点など）					
解剖・生理については、呼吸器系のみならず循環系も各自復習をしておいてください。 毎回小テストを行い復習します。 実技は、基本的なことのみ行いますので練習を繰り返して行ってください。					

科目区分	専門分野	履修条件		
科目名	理学療法技術論Ⅳ (スポーツ・プール)	単位数	2	開講年次 2年
担当教員	橋本康平	授業場所 (教室)		機能訓練室・教室
実務経験	総合病院で理学療法士として勤務経験あり。			
授業形態	講義、実技			
授業内容	スポーツ活動支援における理学療法について扱う。			
授業科目の 学習教育目標	主なスポーツ障害・外傷の基礎知識、それらに対する理学療法士としてのかかわりについて学ぶ。また、障がい者スポーツと理学療法との関りについて学ぶ。これらの領域において必要な評価技術や基本的なリハビリテーション実技についても実習を通して学ぶ。			
到達目標 (行動目標)	各回の講義内容を復習し、必要があれば担当教員への質問を行う。これらを通して、理解度確認テストで十分な点数が取れるよう学習を行う。実習形式で実技を行う際には、デモンストレーションの模倣からはじめて、積極的に参加し繰り返し身体を使って練習をする。			
回数	授業計画			
1	スポーツ理学療法とは～活動内容とその目的～			
2	上肢・体幹のスポーツ障害～基礎知識と受傷起点のメカニズム～ (理解度確認テストの実施)			
3	上肢・体幹のスポーツ障害～一般的な評価と理学療法について～ (理解度確認テストの実施)			
4	下肢のスポーツ障害～基礎知識と受傷起点のメカニズム～ (理解度確認テストの実施)			
5	下肢のスポーツ障害～一般的な評価と理学療法について～ (理解度確認テストの実施)			
6	上肢・体幹のスポーツ外傷～基礎知識と受傷起点のメカニズム～ (理解度確認テストの実施)			
7	上肢・体幹のスポーツ外傷～一般的な評価と理学療法について～ (理解度確認テストの実施)			
8	下肢のスポーツ外傷～基礎知識と受傷起点のメカニズム～ (理解度確認テストの実施)			
9	下肢のスポーツ外傷～一般的な評価と理学療法について～ (理解度確認テストの実施)			
10	女性アスリート特有のスポーツ (理解度確認テストの実施)			
11	応急処置・テーピング実習 (理解度確認テストの実施)			
12	応急処置・テーピング実習			
13	フィジカルチェック実習			
14	障がい者スポーツ支援の概要と考え方			
15	障がい者スポーツ支援における理学療法士の役割について (理解度確認テストの実施)			
成績評価	定期試験70%・小テスト (理解度確認テスト) 20%、出席・授業態度10%を総合して			
教科書及び参考書	スポーツ理学療法学 改訂第2版 メジカルビュー社			
教材 (例:パソコン・ビデオ)	パソコン、プロジェクター、テーピング類			
メールアドレス				
備考 (受講に際する留意点など)				
実技を行うことがあるので、動きやすい服装で受講してください。質問などあれば、講義中でも受け付けますので積極的に質問をして疑問を解決できるようにしてください。授業中の飲食・携帯電話の使用は原則禁止とします。				

科目区分	専門分野	履修条件			
科目名	理学療法技術論実習Ⅰ (パーキンソン・失調等)	単位数	1	開講年次	2年
担当教員	内田賢、内田武 安平光一郎、橋本康平	授業場所(教室)		教室、機能訓練室、治療室	
実務経験	総合病院で理学療法士として勤務経験あり。				
授業形態	講義、グループワーク、演習				
授業内容	臨床で経験する中枢神経疾患の代表であるパーキンソン病とその関連疾患、運動失調症、脊髄小脳変性症および顔面神経麻痺について、疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学び、臨床症状を経て理学療法をどのように展開するのかグループディスカッション・実技を交えて身につける。				
授業科目の 学習教育目標	<p>大脳基底核、小脳を中心に構造と機能を学び、損傷によりもたらされる病態を理解する。  損傷された神経機能から生じる障害と、その回復過程を踏まえ、適切な理学療法治療学に結び付ける。  検査(画像・生理検査を含む)やリハビリテーション医療についての知識を深める。  顔面神経麻痺についての病因、症候、検査、診断、治療、リハビリテーション医療について学ぶ。</p>				
到達目標 (行動目標)	<p>①中枢神経系の構造と機能を理解し、病変による運動異常を説明できる。  ②パーキンソン病とその関連疾患、運動失調症、脊髄小脳変性症および顔面神経麻痺について、疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を知る。  ③リハビリテーション医療の考え方を学び、疾患別理学療法を模倣する。  ④理学療法評価項目の選択、問題点の抽出、治療プログラムの立案に至るプロセスを経験する。</p>				
回数	授業計画				
1	大脳基底核の構造と機能				
2	パーキンソン病の概念・定義				
3	パーキンソン病の理学療法①				
4	パーキンソン病の理学療法②				
5	グループワーク①				
6	グループワーク②(発表)				
7	小脳の構造と機能				
8	病巣別失調症の症状				
9	失調症の症状に対する評価				
10	グループワーク③				
11	グループワーク④(発表)				
12	失調症の理学療法①				
13	失調症の理学療法②				
14	脊髄小脳変性症の症状、分類、評価				
15	顔面神経の機能・構造、神経損傷による症状				
成績評価	小テスト(10%)、グループ課題(20%)、定期テスト(70%)				
教科書及び参考書	病気が見える⑦脳・神経 第2版 メディックメディア、ベッドサイドの神経の診かた 改訂17版 南山堂、配布資料				
教材 (例:パソコン・ビデオ)	パソコン、プロジェクター、筆記用具				
メールアドレス					
備考(受講に際する留意点など)					
<p>脳機能の解剖・生理学の内容を復習しておいてください。実習に向けて、基礎知識・評価・治療を学んでいきます。わからないことは教材を見返し、教員やクラスメートに質問したり、グループワークなどを通じて理解を深めてください。  授業中の飲食は禁止します。必要時には、許可を取ってから教室の出入りをしてください。携帯電話は授業中電源を切ることに。</p>					

科目区分	専門分野 理学療法治療学		履修条件		
科目名	理学療法技術論実習Ⅱ (CVA)	単位数	1	開講年次	2年
担当教員	足野 正洋	授業場所(教室)		教室、機能訓練室	
実務経験	総合病院で理学療法士として勤務経験あり。				
授業形態	講義、演習、実技				
授業内容	理学療法の対象となる中枢神経疾患として代表的な、脳卒中に対する理学療法の理論と実際について理解する。 病態や障害の成立や、障害の運動解析、さらに機能回復に関わるメカニズムを習得する。				
授業科目の 学習教育目標	①脳機能を復習し、損傷部位の代表的臨床所見を理解する。 ②主な疾患の病態、病態生理、症候、診断と治療を知る。 ③高次脳機能障害、認知症を理解する。 ④代表的な脳卒中患者の評価指標を知る。 ⑤理学療法プログラムの立案し、実施する。 ⑥評価・介入時、リスクを認識し、管理できる能力を身につける。				
到達目標 (行動目標)	①脳解剖を確認し、それぞれの機能・役割を関連づける。また、病巣部位から予測される臨床所見を推察する。 ②病態・病態生理・症候・診断を理解し、治療法の例を挙げる。 ③高次脳機能障害・認知症について学び、コミュニケーションや対応方法を模倣する。 ④脳血管障害に関する評価指標を説明する。 ⑤対象者の状態を把握し、適切な理学療法を選択する。 ⑥評価・測定、理学療法実施時に介入方法を工夫する。 ⑦必要なリスク管理を行い、治療を実施する。				
回数	授業計画				
1	大脳の構造・機能、機能局在について				
2	大脳辺縁系の構造・機能について(海馬、扁桃体、間脳)				
3	脳血管(動脈・静脈)の走行・分布領域、評価方法について				
4	脳血管障害(脳梗塞)の病因、病態生理、症候について				
5	ラクナ梗塞、小脳梗塞の病因、病態生理、症候について				
6	脳血管障害(脳梗塞)検査(画像・生理検査)診断、治療について				
7	脳血管障害(脳出血・頭蓋内出血)病因、病態生理、症候について				
8	脳血管障害(脳出血・頭蓋内出血)検査(画像・生理検査)、診断、治療について				
9	高次脳機能障害・認知症の病態や障害像について				
10	脳卒中片麻痺のリハビリテーション医療について				
11	脳卒中片麻痺の理学療法評価について①				
12	脳卒中片麻痺の理学療法評価について②				
13	脳血管障害のADL・IADL				
14	脳卒中片麻痺の動作観察①				
15	脳卒中片麻痺の動作観察②・まとめ				
成績評価	定期試験(70%)、小テスト(10%)、課題レポート(10%)、授業での発表(10%)				
教科書及び参考書	「脳卒中 理学療法の理論と技術」 原 寛美 吉尾 雅春 編 メジカルビュー社出版 「病気が見える 脳・神経」 医療情報科学研究所 編 メディックメディア 発行				
教材 (例:パソコン・ビデオ)	パソコン、プロジェクター				
メールアドレス					
備考(受講に際する留意点など)					

科目区分	専門分野	履修条件			
科目名	理学療法技術論実習Ⅲ (RA・難病等)	単位数	1	開講年次	2年
担当教員	内田 賢	授業場所 (教室)			
実務経験	総合病院で理学療法士として勤務経験あり。				
授業形態	講義				
授業内容	RA、熱傷、難病、がんに対する理学療法				
授業科目の 学習教育目標	理学療法の対象となる疾患には、発症後不幸な転機をたどるものもある。その方に寄り添いのADL、QOLを高める必要がある。そのために必要な知識、技術について学習する				
到達目標 (行動目標)	RA、熱傷、難病、がん等の疫学、病態、診断、PT評価、介入方法について理解する。				
回数	授業計画				
1	RAの疫学、病理、病態、症候について				
2	RAの検査、診断、理学療法評価について				
3	RAに対する理学療法について				
4	熱傷の疫学、病理、病態、症候について				
5	熱傷の治療と評価とについて				
6	熱傷に対する理学療法について				
7	難病とは：定義、疾患、国の支援・対策について				
8	筋委縮性側索硬化症の疫学、病理、病態、理学療法について				
9	全身性エリテマトーデス・多発性筋炎の疫学、病理、病態、理学療法について				
10	多発性硬化症の疫学、病理、病態、理学療法について				
11	ギランバレー症候群・重症筋無力症の疫学、病理、病態、理学療法について				
12	がんの疫学、病理、病態、症候について				
13	がんの治療と有害事象について				
14	がん患者に対する理学療法について				
15	まとめ				
成績評価	定期試験、小テスト、出席状況等総合的に判断する				
教科書及び参考書	配布資料				
教材 (例:パソコン・ビデオ)	パソコン、プロジェクター				
メールアドレス					
備考 (受講に際する留意点など)					

科目区分	専門分野 理学療法治療学	履修条件			
科目名	理学療法技術論実習Ⅳ（臨床応用力）	単位数	1	開講年次	2年
担当教員	内田賢、内田武 安平光一郎、橋本康平	授業場所（教室）		機能訓練室、治療室	
実務経験	総合病院で理学療法士として勤務経験あり。				
授業形態	実習形式				
授業内容	障害をお持ちの非常勤講師をお招きし、実際に患者を治療するためのプロセスを経験し、評価・治療の模倣・実施を行う。また、患者に対する配慮、コミュニケーション能力、他職種との協調性などの技術を高める。				
授業科目の 学習教育目標	中枢神経疾患症例に対する臨床推論能力と問題解決能力を高める。 基本的アセスメントができるようになる。 患者や周囲のスタッフに対するコミュニケーション能力を身につける。				
到達目標 (行動目標)	①中枢神経疾患症例に対する主訴・need・demandなどの情報収集ができる。 ②中枢神経疾患症例の特徴を把握し、必要な評価を選択し、模倣・実施できる。 ③収集した情報と、評価結果を関連づけ、問題点を抽出できる。 ④収集した情報を問題点と関連付け、ゴール設定ができる。 ⑤①～④を関連づけ、治療プログラムの立案ができる。 ⑥⑤で立案した治療アプローチが模倣・実施できる。 ⑦医療人としてふさわしい態度・言葉遣い・身だしなみを身につける。 ⑧学生としての立場を理解し、意欲的に実習に取り組むことができる。 ⑨グループ内で協調性をもって実習を行うことができる。 ⑩実習で取り組んだ結果を文章化し、専門用語を使ってまとめることができる。				
回数	授業計画				
1,2	総論（実習の流れ・目的の説明）、カルテ情報				
3,4	情報収集（患者紹介・問診）				
5,6	情報収集（検査・測定）① 結果の分析、フィードバック				
7,8	情報収集（検査・測定）② 結果の分析、フィードバック				
9,10	情報収集（検査・測定）③ 結果の分析、フィードバック				
11,12	情報収集（検査・測定）④ 結果の分析、フィードバック				
13,14	情報収集（検査・測定）⑤ 結果の分析、フィードバック				
15,16	情報収集（検査・測定）⑥ 結果の分析、フィードバック				
17,18	情報収集（検査・測定）⑦ 結果の分析、フィードバック、問題点の抽出				
19,20	情報収集（検査・測定）⑧ 結果の分析、フィードバック、治療プログラムの立案				
21,22	再評価・治療方針変更				
23,24	在宅患者の生活見学				
25,26	担当症例以外の患者見学①				
27,28	担当症例以外の患者見学②				
29,30	症例報告会				
成績評価	課題提出（80%）、出席状況（10%）、発表（10%）				
教科書及び参考書	理学療法評価学／金原出版 理学療法ハンドブック／協同医書出版社 他				
教材 (例:パソコン・ビデオ)	適宜				
メールアドレス					
備考（受講に際する留意点など）					
症例に対する評価の選択、実技の実施、評価結果の「統合と解釈」のグループ演習を行います。課題に対しては、教科書や文献などを自ら調べ、諸問題に対する解決能力の向上が求められています。臨床実習につながる大切な機会となりますので、学生各自の積極的な取り組みとグループ内での活発なディスカッションを期待しています。					



科目区分	専門分野	履修条件		開講年次	2年
科目名	日常生活活動論	単位数	2	開講年次	2年
担当教員	辰巳 裕美	授業場所 (教室)		教室・ADL室	
実務経験	総合病院で理学療法士として勤務経験あり。				
授業形態	講義、演習				
授業内容	人間が生活していく上で、慢性疾患や障害を持ちながら日々を送る人を援助するリハビリテーションの実践を学び、基本となる日常生活活動 (動作) とは何か理解する。				
授業科目の 学習教育目標	日常生活活動 (以下ADL) の概念やADL評価、国際生活機能分類[ICF]との関連性などの基本的なADLを理解する。理学療法士として適切なADLの改善方法が提供できるよう、実習や演習を通して評価・指導方法を身につける。また、ADLを支援する機器としての自助具や日常生活用具、歩行補助具や車いすなどの補装具の使用目的とその役割についても理解する。				
到達目標 (行動目標)	①ADLの概念、生活の質[QOL]の概念、ICFなど基本的な知識が説明できる。 ②ADLの代表的な評価方法を習得し、その結果を解釈できる。 ③セルフケア能力低下の程度と関連要因を評価し、対象者の状態を把握できる。 ④車いすの種類・適応、リフトの使用方法について説明し、車いすの調整を身につける。 ⑤臥位・座位の適切な姿勢保持を知り、対象者の姿勢を修正できる。 ⑥摂食・嚥下障害に対する理学療法について説明する。				
回数	授業計画				
1	ADL総論－概念、範囲、意義－				
2	国際疾病分類 (ICD) と国際生活機能分類 (ICF)				
3	ADLの評価のポイント、代表的な評価法① (BI)				
4	代表的な評価法② (FIM)				
5	症例検討 (グループワーク)				
6	その他の評価法 (IADLスケール、老研式活動能力指標)				
7	介助方法と練習指導①				
8	介助方法と練習指導②				
9	ADL・IADL①				
10	ADL・IADL②				
11	認知症におけるADL制限				
12	ADL支援機器 (自助具・日常生活用具)				
13	障害者体験 (グループワーク)				
14	ADL支援機器 (歩行補助具・リフト)				
15	ADL支援機器 (車椅子)				
成績評価	出席状況 (5%)、課題提出 (15%)、定期試験 (80%)				
教科書及び参考書	「新版 日常生活活動 (ADL) -評価と支援の実際- (医歯薬出版)」 参考書: PT・OTビジュアルテキスト ADL (羊土社)				
教材 (例: パソコン・ビデオ)	教科書、筆記用具、パソコン、プロジェクター				
メールアドレス					
備考 (受講に際する留意点など)					
演習では、動きやすい服装になるよう配慮してください。提出課題がある場合には、提出期限を厳守してください。授業中の飲食は禁止します。教室の出入りは許可を取ってください。授業中は携帯電話の電源をきることを。					

科目区分	専門分野	履修条件			
科目名	日常生活活動論実習	単位数	1	開講年次	2年
担当教員	内田賢、内田武 安平光一郎、橋本康平	授業場所（教室）		教室、訓練室	
実務経験	総合病院で理学療法士として勤務経験あり。				
授業形態	講義・実技				
授業内容	疾患・障害別の日常生活動作の指導法・介助方法などの基本的技術を学ぶ。 また障害に合わせた福祉用具に関する知識について学ぶ				
授業科目の 学習教育目標	片麻痺・脊髄損傷など障害に合わせた日常生活活動の介助方法・指導方法などの基本的技術を学び、障害に合わせた福祉用具の検討も行う				
到達目標 (行動目標)	疾患・障害に合わせた日常生活活動の介助方法・指導方法などの基本的技術を身に着ける。 障害に合わせた福祉用具を検討することができる。				
回数	授業計画				
1	FIMについて				
2	整形外科疾患のADL、高齢者におけるADL				
3	脊髄損傷のADL1				
4	脊髄損傷のADL2				
5	脊髄損傷のADL3				
6	脊髄損傷のADL4				
7	リウマチのADL1				
8	リウマチのADL2				
9	片麻痺のADL1				
10	片麻痺のADL2				
11	片麻痺のADL3				
12	片麻痺のADL4				
13	切断のADL				
14	福祉用具 1				
15	福祉用具 2				
成績評価	定期試験				
教科書及び参考書	新版 日常生活活動（ADL）－評価と支援の実際－（医歯薬出版）				
教材 (例:パソコン・ビデオ)	パソコン、配布資料				
メールアドレス					
備考（受講に際する留意点など）					

科目区分	専門分野	履修条件			
科目名	義肢装具学	単位数	2	開講年次	2年
担当教員	内田 賢	授業場所 (教室)		義肢・装具学	
実務経験	総合病院で理学療法士として勤務経験あり。				
授業形態	講義				
授業内容	義肢・装具学について理解する				
授業科目の 学習教育目標	義肢・装具は、身体機能を補助し、ADLやQOLを高めるアイテムである。 基本的な義肢・装具の種類や適応について学ぶ。				
到達目標 (行動目標)	対象者に適した義肢・装具が検討でき、そのチェックアウトや調整ができる。				
回数	授業計画				
1	総論：定義・切断分類・原因等				
2	義足のパーツについて				
3	下肢切断部位と特徴				
4	下腿義足 1				
5	下腿義足 2				
6	大腿義足 1				
7	大腿義足 2				
8	股義足・膝義足・サイム義足等				
9	装具総論：定義・分類等				
10	下肢装具 (AF01)				
11	下肢装具 (AF02)				
12	下肢装具 (KAFO、KO、HO等)				
13	靴型装具				
14	上肢装具				
15	体幹装具				
16	まとめ				
成績評価	定期試験、小テスト等総合的に評価します。				
教科書及び参考書	15レクチャーシリーズ理学療法テキスト「義肢学」「装具学」中山書店				
教材 (例：パソコン・ビデオ)	パソコン、配布資料				
メールアドレス					
備考 (受講に際する留意点など)					
<p>毎回、前回の復習と小テストを行います。</p> <p>義肢・装具を理解するためには、運動学の知識が必要です。各関節の運動学や歩行の運動学について復習しておいてください。</p>					

科目区分	専門分野	履修条件		
科目名	義肢装具学実習	単位数	1	開講年次 2年
担当教員	中村宣郎・鎌田智彦・後藤開	授業場所(教室)		教室・義肢装具実習室
実務経験	義肢装具士として医療機器メーカーでの実務経験あり			
授業形態	実習			
授業内容	義肢・装具について実習する			
授業科目の 学習教育目標	<p>事故や病気等で手や足を失われた方が使用される義手や義足のメカニズムについて理解する。また近年目覚ましく進歩している義肢の構成パーツについても映像を通して知識を深める。</p> <p>装具は、身体の一部が弱かったり、機能が失われたときに用いられます。装具には、治療を目的として短期間使用される場合と、長期間にわたってADL確保のために使用される場合がある。</p>			
到達目標 (行動目標)	<p>義肢装具の種類を説明できる。義肢装具の適応について説明できる。義肢装具の適合性の確認について説明できる。義肢装具のアライメント調整ができる。</p>			
回数	授業計画			
1	下肢装具1			
2	下肢装具2			
3	上肢装具1			
4	上肢装具2			
5	体幹装具1			
6	体幹装具2			
7	実習1			
8	実習2			
9	下腿義足、サイム義足、足根義足のメカニズム1			
10	下腿義足、サイム義足、足根義足のメカニズム2			
11	大腿義足、膝義足、股義足のメカニズム1			
12	大腿義足、膝義足、股義足のメカニズム2			
13	前腕義手、上腕義手、肩義手のメカニズム1			
14	前腕義手、上腕義手、肩義手のメカニズム2			
15	大腿義足のベンチアライメント			
成績評価	定期試験			
教科書及び参考書	<p>教科書：義肢・装具カタログ</p> <p>参考書：切断と義肢（医歯薬出版）、義肢学（医歯薬出版）</p>			
教材 (例：パソコン・ビデオ)	パソコン、ビデオ			
メールアドレス				
備考（受講に際する留意点など）				

科目区分	専門分野	履修条件			
科目名	生活環境論	単位数	2	開講年次	2年
担当教員	北山 朋宏	授業場所 (教室)		教室	
実務経験	作業療法士として総合病院等での臨床経験あり				
授業形態	講義				
授業内容	障害と生活環境について学習する				
授業科目の 学習教育目標	各種疾患・障害あるいは加齢などが、高齢者や障害者だけでなく、介護する家族の生活にどのような影響を与えるのか、そして我々リハ職種がどうかかわっていくかを学ぶ。疾患や障害像、生活場面に応じた様々な問題と対策について、具体的な内容を講義する。また、図面の作成を通じて、講義内容の理解を深める。				
到達目標 (行動目標)	住環境整備の進め方や留意点について理解する。加齢や障害別の住環境整備について考慮できる。図面の見方や見取り図が描けるようになる。				
回数	授業計画				
1	社会の中での住宅				
2	高齢者・障害者の住宅事情と住宅施策				
3	介護保険制度における住環境整備				
4	住環境整備の進め方と留意点1				
5	住環境整備進め方と留意点2				
6	住環境整備進め方と留意点3				
7	住環境整備進における障害別配慮：高齢者				
8	住環境整備進における障害別配慮：脳血管障害				
9	住環境整備進における障害別配慮：認知症、高次脳機能障害、パーキンソン病				
10	住環境整備進における障害別配慮：筋ジストロフィー症、ALS、DM、切断、慢性関節リウマチ				
11	住環境整備進における障害別配慮：脊髄損傷、脳性麻痺、内部障害、難病、視覚・聴覚障害				
12	住環境整備進の基本的配慮：図面の見方と見取り図の描き方				
13	平面図を用いた事例検討1				
14	平面図を用いた事例検討2				
15	平面図を用いた事例検討3 (グループ発表)				
成績評価	定期試験				
教科書及び参考書	OT・PTのための住環境整備 (三輪書店)				
教材 (例：パソコン・ビデオ)	パソコン				
メールアドレス					
備考 (受講に際する留意点など)					
生活環境についての奥深さを、具体的な事例を通じて学んでください。また講義で得た知識を実際に役立てるため、ノーマライゼーションや地域リハビリテーションについても理解を深めてください。					

科目区分	専門分野	履修条件			
科目名	地域理学療法	単位数	2	開講年次	2年
担当教員	内田 武	授業場所 (教室)		教室、PC室	
実務経験	総合病院で理学療法士として勤務経験あり。				
授業形態	講義、グループワーク				
授業内容	<p>地域リハビリテーションの概念を理解し、法制度を学ぶ。地域における理学療法の知識、技術について学び、各時期における心身機能の変化や理学療法の目標などについて考えていく。</p> <p>介護保険制度や地域包括ケアシステムの展開や、理学療法領域の広がりを見据え、介護予防、健康増進、災害時支援・国際支援と視野を広げた医療機関以外での多くの活動についても理解する。</p>				
授業科目の学習教育目標	<p>地域連携やそのシステムを踏まえ、地域で生活する高齢者や障害(児)者の生活機能の維持・向上に向けて、理学療法士の立場から支援していくための知識・方法について理解する。理学療法領域の広がりを見据え、介護予防、健康増進、災害時支援・国際支援と視野を広げた医療機関以外での多くの活動についても理解する。</p>				
到達目標 (行動目標)	<p>①地域理学療法における理学療法士の役割を理解し、入所施設、通所施設、通所施設、訪問における理学療法について説明する。</p> <p>②地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割が説明できる。</p> <p>③地域における他職種連携について説明できる。</p> <p>④健康維持・増進における理学療法・理学療法士の役割が説明できる。集団を対象とした指導方法が説明できる。</p> <p>⑤介護予防における理学療法・理学療法士の役割を説明できる。</p>				
回数	授業計画				
1	地域リハビリテーションの概念・定義・活動指針				
2	地域理学療法の概念、地域における理学療法士の役割				
3	地域理学療法の関係法規				
4	ICFと地域理学療法				
5	地域における社会資源 (グループワーク)				
6	住環境評価・住環境整備、福祉用具				
7	地域包括ケアシステムについて				
8	介護保険における理学療法				
9	在宅医療に関わる知識				
10	事例を通して住宅環境を考える (グループワーク)				
11	各職種の果たす役割				
12	健康維持・増進、介護予防における理学療法				
13	事例検討①				
14	事例検討②				
15	まとめ				
成績評価	出席状況 (5%)、課題レポート (20%)、定期試験 (75%)				
教科書及び参考書	PT・OTビジュアルテキスト 地域リハビリテーション学 第2版 羊土社、配布資料				
教材 (例:パソコン・ビデオ)	パソコン、プロジェクター、筆記用具				
メールアドレス					
備考 (受講に際する留意点など)					

科目区分	専門分野	履修条件			
科目名	臨床実習Ⅰ	単位数	4	開講年次	2年
担当教員	内田賢、内田武 安平光一郎、橋本康平	授業場所(教室)			
実務経験	総合病院で理学療法士として勤務経験あり。				
授業形態	診療参加型臨床実習				
授業内容	実習施設において臨床実習指導者のもと、対象者に対する理学療法評価から治療プログラムの立案という一連の過程を実習する。				
授業科目の 学習教育目標	理学療法の流れを理解し、臨床内容の意義を理解した言動を取る。 チーム職種の考え、行動を理解し、チーム職種が考えた臨床推論について説明できる。 自らの考えを模倣的に発する経験を積む。				
到達目標 (行動目標)	①理学療法士としての基本的姿勢を身につける。(身だしなみ、言葉遣い、規則厳守) ②自己の課題や役割に対し意欲的、積極的に取り組み、指導に対し改善していくことができる。 ③相手の訴えを聞き、気持ちを理解し、良好な人間関係を構築する。 ④誠意をもって接することができ、信頼を得ることができる。 ⑤記録、報告が適切な時期に行え、正確・簡潔な記載が専門用語を用いてできる。 ⑥情報収集、評価結果より妥当な目標設定・問題点抽出ができる。 ⑦仮説立案より検査・測定を選択できる。 ⑧基本的な検査、測定が段取り良く安全に実施でき、正確性、再現性がある結果が出せる。 ⑨わかりやすいオリエンテーションが行える。 ⑩リスクに配慮し、治療プログラムの立案・実施ができる。				
実習計画					
客観的臨床能力試験 (OSCE)(2時間)					
実習施設における見学 (40時間)					
実習施設における実習(120時間)					
・見学、模倣、実施を段階的に指導者の判断の下、リスクの低い患者様、指導の下、実施可能な患者様において評価、治療等を行う。 ・日々の関りの中で、入院から退院までの流れを知るとともに、ゴール設定、問題点の抽出、治療プログラム立案の考え方を指導者より学ぶ。					
臨床能力総合試験 (OSCE) (2時間)					
実習地：病院又は診療所、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム					
実習における課題(16時間)：自己チェックシート、問題点と努力目標(実習前後に記入)					
	提出物、実習評価表およびOSCEの結果より総合的に判断する。				
教科書及び参考書	特に指定しない				
教材 (例：パソコン・ビデオ)	特に指定しない				
メールアドレス					
備考(受講に際する留意点など)					
これまでの学習内容や、評価・検査に関する技術などを確認しておくこと。					

科目区分	専門分野	履修条件			
科目名	理学療法セミナー	単位数	8	開講年次	3年
担当教員	内田賢、内田武 安平光一郎、橋本康平	授業場所（教室）			
実務経験	総合病院で理学療法士として勤務経験あり。				
授業形態	講義形式				
授業内容	臨床実習に臨むにあたり、学内で習得した共通分野・専門分野の知識と技術を再確認する。 実習後には実習で経験した症例を発表することで、経験できなかった学生に対し理学療法の計画や介入方法、リスク管理についての知識や技術を高める。				
授業科目の 学習教育目標	臨床で実践できるために今までの学んだ知識を深め、理学療法の基礎的な実践力を高める。				
到達目標 (行動目標)	理学療法を実践するために必要な知識や具体的な実践方法のすべてを再度学修する。 臨床実習で実際の症例の方に基本的な検査や治療が実践できる。				
回数	授業計画				
各1回 6時間	1 解剖学①	11 骨関節障害②	21 基本的介入		
	2 解剖学②	12 神経筋障害①	22 疾患別評価		
	3 解剖学③	13 神経筋障害②	23 疾患別介入		
	4 生理学①	14 内部障害	24 症例報告会①		
	5 生理学②	15 老年期障害	25 症例報告会②		
	6 生理学③	16 小児・発達障害	26 症例報告会③		
	7 運動学①	17 精神障害	27 症例報告会④		
	8 運動学②	18 心理学	28 症例報告会⑤		
	9 運動学③	19 実地	29 症例報告会⑥		
	10 骨関節障害①	20 基本的評価	30 まとめ		
成績評価	セミナー試験、出席・授業態度などを総合して評価。				
教科書及び参考書	配布資料 これまでに購入した全教科書				
教材 (例:パソコン・ビデオ)	特に指定しない				
メールアドレス					
備考（受講に際する留意点など）					
グループワークを中心にして実施していきます。疑問などを積極的にグループ内で共有し、話し合い解決していくように心がけてください。					



科目区分	専門分野	履修条件			
科目名	臨床実習Ⅱ	単位数	16	開講年次	3年
担当教員	内田賢、内田武 安平光一郎、橋本康平	授業場所（教室）			
実務経験	総合病院で理学療法士として勤務経験あり。				
授業形態	診療参加型臨床実習				
授業内容	実習施設において臨床実習指導者のもと、対象者に対する理学療法評価から治療プログラムの立案という一連の過程を総合的に実習する。				
授業科目の 学習教育目標	理学療法の流れを理解し、臨床内容の意義を理解した言動を取る。 チーム職種の考え、行動を理解し、チーム職種が考えた臨床推論について説明できる。 自らの考えを模倣的に発する経験を積む。				
到達目標 (行動目標)	①理学療法士としての基本的姿勢を身につける。（身だしなみ、言葉遣い、規則厳守） ②患者様に対して医療人としての対応ができる。 ③理学療法士の施設での位置づけ、業務内容が理解できる。 ④臨床実習に意欲的、積極的に取り組むことができる。 ⑤評価に必要な情報を他部門やカルテより収集できる。 ⑥妥当性のある目標の設定ができる。 ⑦仮説立案をして問題点の抽出ができる。 ⑧抽出した問題点に対して、必要な検査・測定ができる。 ⑨検査測定の結果について解釈ができる。 ⑩治療プログラムの立案ができる。 ⑪基本的な理学療法治療を、指導を受けながら適切に実施できる。 ⑫記録・報告が適切な時期・方法で行える。				
週	実習計画				
	臨床実習Ⅱ（16単位）は2回（2期）に分けて実施する。 客観的臨床能力試験（OSCE:2時間） 実習施設における実習（640時間：1期320時間） ・見学、模倣、実施を段階的に指導者の判断の下、リスクの低い患者様、指導の下、実施可能な患者様において評価、治療等を行う。 ・日々の関りの中で、入院から退院までの流れを知るとともに、ゴール設定、問題点の抽出、治療プログラム立案の考え方を指導者より学ぶ。 実習施設：医療提供施設（病院、診療所、老人保健施設） 課題（76時間）：自己チェックシート、問題点と努力目標（実習前後に記入） 臨床能力総合試験（OSCE：2時間）				
成績評価	提出物、実習評価表およびOSCEの結果より総合的に判断する。				
教科書及び参考書	特に指定しない				
教材 (例：パソコン・ビデオ)	特に指定しない				
メールアドレス					
備考（受講に際する留意点など）					
これまでの学習内容や、評価・検査に関する技術などを確認しておくこと。 臨床実習Ⅰで、介護老人保健施設や特別養護老人ホームで実習を行った者は、2回とも病院もしくは診療所で実習を行う。 臨床実習Ⅰで、病院又は診療所で実習を行った者は、1回か2回、病院もしくは診療所で実習を行う。					